

# バリアフリー体験教室



小学生を対象にバリアフリー\* 体験教室を実施しています！



## 【車いす体験】

歩道の段差や傾斜がどのように感じられるか体験する。



## 【感想】

- ・3cmほどの小さな段差が大きく感じた。
- ・ぼこぼこした道が通りにくかった。
- ・坂道がとてもきつかった。



はくしょう

## 【白杖体験】

目の不自由な方が、普段使用する道をどのように感じるのか体験する。

## 【感想】

- ・点字ブロックは目の見えない人にとってはとても大事だとわかった。
- ・段差は、目の不自由な人には必要だと思った。
- ・点字ブロックの上に自転車を止めていたら注意していきたい。



ステッキつえ つえがないと歩けないかも！



はくしょうめがね  
まわりが見えにくくなる

ジャケット  
ポケットに「おもり」をいれるから、  
とてもうごきにくい。

ひじサポーター  
ひじをまげにくい

手くびサポーター  
てくびをまげにくい

ひざサポーター  
ひざをまげにくい

足くびサポーター  
たくびをまげにくい

## 【高齢者体験】

白内障めがね、おもいやサポーターをつけて、高齢者の体がどのくらい動きづらいのか体験する。

## 【感想】

- ・体が重かったり、膝が曲げられなかったりできつかった。
- ・お年寄りには優しくしようと思った。

## 【『心のバリアフリー』のお話】

「心のバリアフリー」は、自分のまわりに、どのようなバリアを感じている人がいるか目を向けて行動を起こすことです。

## 【感想】

- ・勇気を出して「何かお困りでしょうか」と声をかけようと思う。
- ・優しく声をかけてあげることが大切だと思った。
- ・ヘルプカードを持っている人たちに自分から声をかけていきたい。



久留米市社会福祉協議会からの説明

道路工事に携わる方々も参加しています



たった1 cmの差が  
大きく感じられる！



工事中の仮設道路でも、  
段差や幅を  
考えた道にしないと！

国道事務所安全協議会の11名がバリアフリー体験をしました。日頃は道路の維持、修繕などの工事に携わっている方々です。今回の体験を今後の施工や現場の安全対策等に反映していくとのことでした。

(\*) バリアフリーとは、障害のある人が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去するという意味で昭和49年（1974年）に国連障害者生活環境専門家会議が「バリアフリーデザイン」という報告書を出したところから、この言葉が使用されるようになりました。